

【速報】令和8年(2026年)熊本地震 現地調査報告

(地表地震断層について)

令和8年9月

熊本地震対応従事者一覧

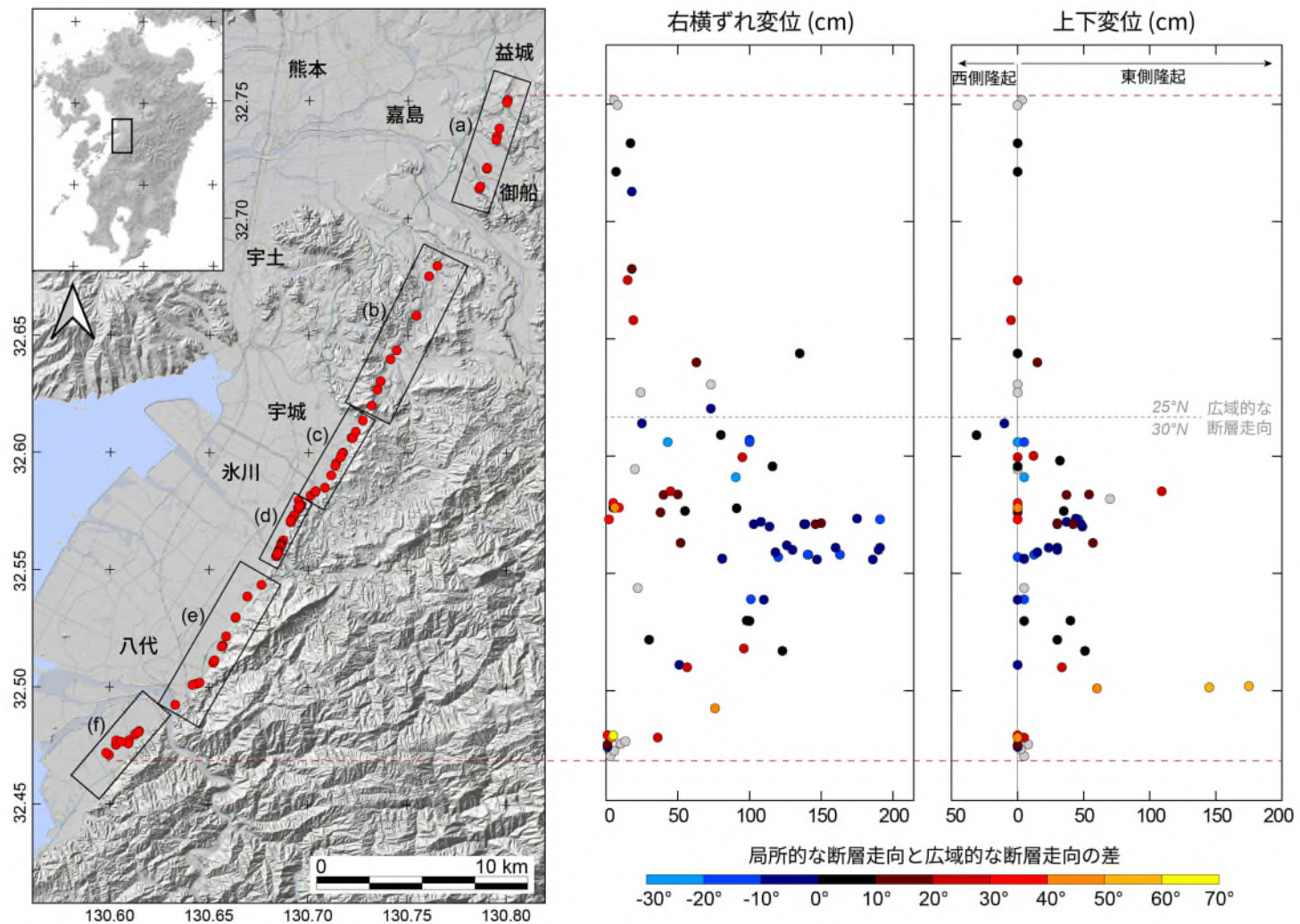


調査グループ	調査者	日程	備考
エネルギー事業部 防災・インフラ事業部合同	平松 晋一、 能見 忠歳、松村 大志	8/1	全体の被災状況調査
エネルギー事業部 (東北大学・熊本大学合同)	原 勇貴	8/1～4	地表地震断層による 変動状況調査
エネルギー事業部	市川 八州夫	8/3～6	地表地震断層による 変動状況調査
エネルギー事業部	平松 晋一、田次 将太	8/4～7	
エネルギー事業部	吉田 拓海、藤岡 大	8/6～7	
エネルギー事業部	平松 晋一、市川 八州夫	8/18～19	地表地震断層の南端部 北端部周辺調査
エネルギー事業部	小澤 智弘、櫻井 麻依人	-	バックヤード対応

謝辞

本報告の調査の一部は、東北大学・熊本大学との合同で実施させていただきました。
データの使用をご許可いただき感謝申し上げます。

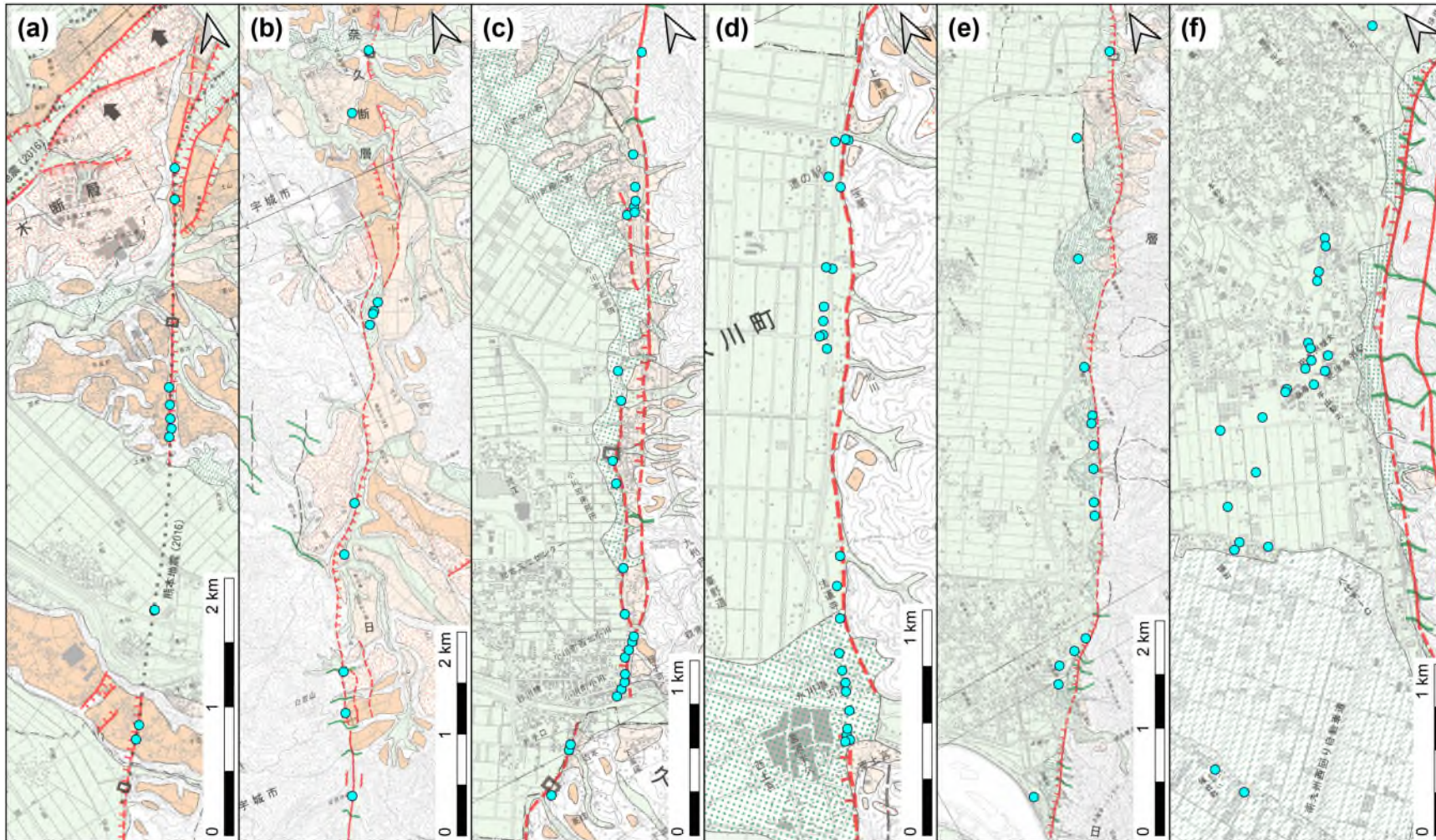
令和8年熊本地震に伴ってあらわれた地表地震断層の分布と変位量



- 横ずれ変位は氷川町河原周辺で最も大きく、上下変位は宇城市小川町や八代市上片町（八代JCT）で最も大きい
- 北部の(a)および(b)の北側領域では、変位量は比較的小さい

令和8年熊本地震に伴ってあらわれた地表地震断層の分布と各地点の変位量を示した図。図中の(a)から(f)は、次図の各範囲を示す。変位量の分布図におけるプロット色は、現地計測した地震断層の走向と活断層図から読み取った断層走向との差分を示す。走向変化は、活断層図の断層走向に対して現地計測が東向き（時計回り）を正、西向き（反時計回り）を負とした。

本調査によって地表地震断層を認めた地点



・ 計108地点で変位を記載

・ 都市圏活断層図
(国土地理院^{4),5),6)}
の断層トレース (図
中赤線) 上に加えて,
トレースから1 km西
の地点でも地表地震
断層を認めた

本調査によって地表地震断層 (or本地震に関連した地形変状) が認められた地点の一覧 (水色の丸) . 都市圏活断層図に加筆.

各地点の地表地震断層状況



益城町小池の舗装路面の変状。本地震であらわれた地震断層の北端と考えられる。周辺の地表面には杉型雁行亀裂が認められる。8月19日撮影。



御船町高木の道路脇の縁石の右横ずれ。右横ずれ変位量は約10cmであり、わずかな上下変位が認められる。アスファルト路面には雁行状の亀裂群が認められる。8月19日撮影。



御船町高木のフェンスの右横ずれ⁷⁾。2016年地震とその後の余効すべりにより本地震の以前から変位が認められていたが、本地震でも再び変位した。フェンスの屈曲と舗装路面の雁行亀裂が認められる。8月2日撮影。



御船町高木のアスファルト路面にみられる雁行亀裂群⁷⁾。写真右の南東側が相対的に低下する。2016年地震とその後の余効すべりでも雁行亀裂が認められ、本地震でも同様の位置に亀裂が生じた。8月2日撮影。



御船町高木のブロック塀の右横ずれ⁷⁾。2016年地震とその後の余効すべりにより本地震の以前から80 cm以上屈曲していたが、本地震でも再び変位した。累積変位は117cm。雁行亀裂と塀の破壊が認められる。8月2日撮影。



御船町高木の道路白線の右横ずれ⁷⁾。写真手前の東側が相対的に低下する。2016年地震とその後の余効すべりにより本地震の以前から変位が認められていたが、本地震でも再び変位した。舗装路面に雁行亀裂が認められる。8月2日撮影。

各地点の地表地震断層状況



御船町高木のブロック塀の右横ずれ⁷⁾。2016年地震とその後余効すべりにより、本地震の以前から5 cm程度の累積変位が認められていたが、本地震でも再び変位した。累積変位は約17cm、塀の屈曲が認められる。8月2日撮影。



御船町滝川のフェンスの右横ずれ⁷⁾。2016年地震とその後余効すべりにより、本地震の以前から屈曲していたが、本地震でも再び変位した。累積変位は105 cm、舗装路面の雁行亀裂とフェンスの屈曲が認められる。8月2日撮影。



御船町滝川の道路白線の右横ずれ⁷⁾。写真8と同地点であり、舗装路面の亀裂が新鮮であることから、本地震による約7cmの右横ずれ変位と考えられる。舗装路面の破壊が認められる。8月2日撮影。



御船町滝川の住宅地にあらわれた地震断層。写真右の西側が相対的に低下しており、雁行状に亀裂群が認められる。8月2日撮影。



御船町滝川の道路を横切る地震断層⁷⁾。道路白線が18cm右横ずれ変位しており、写真手前の西側がやや低下する。断層があらわれた位置は地震後に舗装されている。8月2日撮影。

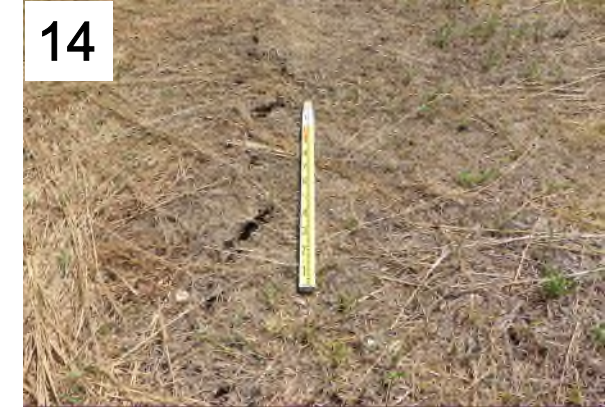
各地点の地表地震断層状況



熊本市南区城南町鰐瀬の道路を横切る地震断層⁷⁾。道路舗装を基準として約18cmの右横ずれ変位が認められる。8月2日撮影。



熊本市南区城南町鰐瀬の道路を横切る地震断層。右横ずれ15cm。道路両側の畑地にはN60E方向にクラックが発達している。8月7日撮影。



宇城市豊野町安見の地震断層。N66E方向に伸長し、約10cmの右横ずれ変位を示す。8月7日撮影。



宇城市豊野町安見のブロック塀の右横ずれ。変位量は横ずれ18cm、縦ずれ数cm（写真奥の西側隆起）。8月7日撮影。



宇城市豊野町安見の宅地を横切る地震断層。N69E方向に伸長し、約10cmの右横ずれ変位を示す。8月7日撮影。



宇城市豊野町安見。石垣には10cm程度の右横ずれ変位を示す。8月7日撮影。

各地点の地表地震断層状況



宇城市豊野町山崎の国道218号を横切る地震断層⁷⁾。道路白線を基準として約135cmの右横ずれ変位が認められる。上下変位は不明瞭。8月2日撮影。



宇城市豊野町下郷の道路を横切る地震断層⁷⁾。グレーチングの右横ずれ変位量は約63cm。写真奥の西側が約15cm隆起する。8月2日撮影。



宇城市豊野町下郷の道路を横切る地震断層⁷⁾。道路舗装の右横ずれ変位量は約73cm。未舗装の地表面に雁行状の亀裂群が認められる。8月2日撮影。



宇城市豊野町下郷の右横ずれ変位したグレーチング⁷⁾。右横ずれ変位量は約24cm。8月2日撮影。



宇城市小川町中小野の娑婆神峠で県道244号を横切る地震断層⁷⁾。道路白線や側溝の右横ずれ変位量は約73cmであり、上下変位量は不明瞭。8月2日撮影。

各地点の地表地震断層状況



宇城市小川町中小野の道路を横断する地震断層。複数のクラックが認められる。右横ずれ25cm, 縦ずれ10cm (西側隆起)。8月7日撮影。



宇城市小川町南小野の民家の敷地を横切る地震断層。右横ずれ80cm, 縦ずれ31cm (写真奥の西側隆起) であり、雁行状にクラックが発達する。8月7日撮影。



宇城市小川町南小野の道路を横切る地震断層。右横ずれ約40cm, 縦ずれ数十cm (写真手前の東側隆起)。8月7日撮影。



宇城市小川町南小野の畑地を横切る地震断層。8月7日撮影。

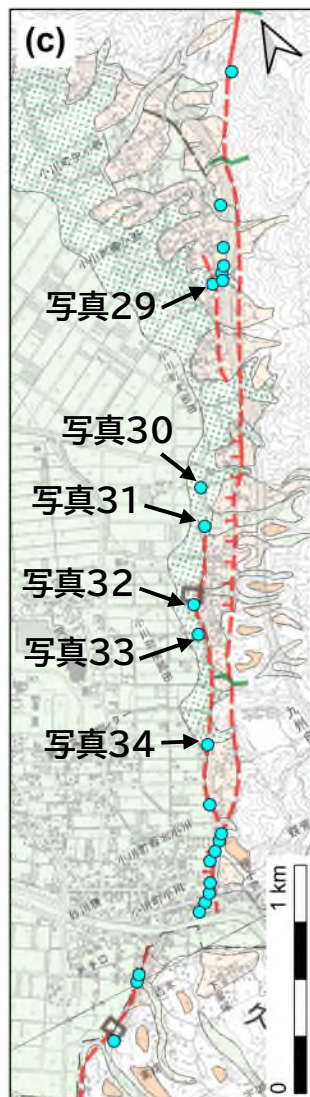


宇城市小川町南小野のU字溝の右横ずれ。変位量は約100cm。8月7日撮影。



宇城市小川町南小野の道路を横切る地震断層。右横ずれ1.0m。8月7日撮影。

各地点の地表地震断層状況



宇城市小川町南小野の道路の右横ずれ.
変位量は43cm. 縦ずれは不明瞭. 8月7日撮影.



宇城市小川町北部田のガードレールの右横ずれ.
幅広く変形が認められ, 右横ずれ95cm. 道路には雁行状の亀裂が認められる. 8月2日撮影.



宇城市小川町北部田にあらわれた地震断層⁷⁾.
写真左の東側が約32cm隆起しており, 短縮変形による構造物の座屈が認められる. 雁行亀裂が発達し, 写真奥の民家の直下を通過する. 8月2日撮影.



宇城市小川町南部田の側溝ブロックや白壁の右横ずれ⁷⁾.
横ずれ変位は約116cmであり, 上下変位は小さい.
舗装路面には雁行亀裂が認められる. 8月1日撮影.



宇城市小川町南部田の道路の右横ずれ⁷⁾.
道路舗装を基準として, 約20cmの右横ずれ変位を示す.
写真奥の西側がやや低下する. 8月1日撮影.



宇城市小川町南部田の道路を横切る地震断層.
右横ずれ91cm, 縦ずれ数cm (写真手前の東側隆起).
8月6日撮影.

各地点の地表地震断層状況



宇城市小川町南部田の道路を横切る地震断層、右横ずれ約30cm、8月6日撮影。



宇城市小川町西北小川、数十cmの右横ずれ変位により、用水路を横断する橋が損壊している、8月6日撮影。



宇城市小川町西北小川の草地を横切る地震断層、約25cmの縦ずれ変位（写真奥の東側隆起）が認められる、8月6日撮影。



宇城市小川町西北小川、縦ずれ変位（写真右の東側隆起）により歩道にクラックが生じている、8月6日撮影。



宇城市小川町西北小川の車道を縦断する地震断層、縦ずれ約25cm（写真左の東側隆起）、8月6日撮影。



宇城市小川町小川の道路を横切る地震断層、右横ずれ約50cm、縦ずれ約100cm（写真手前の東側隆起）であり、路面には複数のクラックが発達している。この地点付近において、地震断層の局所的な走向が北北東から北東方向へと湾曲する、8月6日撮影。

各地点の地表地震断層状況



41
宇城市小川町小川の地震断層。右横ずれ45cm、縦ずれ109cm（写真奥の東側隆起）であり、変位により写真右手の家屋が傾いている。8月6日撮影。



42
宇城市小川町小川の寺院を横切る地震断層。108cmの縦ずれ変位（写真奥の東側隆起）により、社殿の基礎が浮き上がっている。8月6日撮影。



43
宇城市小川町小川の車道を横切る地震断層。右横ずれ、縦ずれともに数十cm（写真奥の東側隆起）。8月6日撮影。



44
氷川町吉本の住宅地にあらわれた地震断層⁷⁾。右横ずれ約50cm、縦ずれ約54cm（写真奥の東側隆起）であり、縦ずれ変位と横ずれ変位が同程度認められる。8月1日撮影。



45
氷川町吉本のブロック塀の右横ずれと縦ずれ変位⁷⁾。右横ずれ約40cm、縦ずれ約37cm（写真右の東側隆起）であり、縦ずれと横ずれ変位同程度認められる。8月1日撮影。



46
氷川町吉本の民家にあらわれた開口亀裂⁷⁾。縦ずれ変位が顕著であり、縦ずれ約70cm（写真右の南東側隆起）。8月1日撮影。

各地点の地表地震断層状況



氷川町道の駅「竜北」にあらわれた地震断層⁷⁾。舗装路面を基準として約91cmの右横ずれ変位が認められる。縦ずれ変位は数cm程度。周囲には雁行亀裂が認められる。8月1日撮影。



氷川町大野の歩道のタイルの右横ずれ。変位量は9cm。8月5日撮影。



氷川町大野のグレーチングの右横ずれ。変位量は6cm。8月5日撮影。



断層変位によって破断した氷川町道の駅「竜北」の屋根⁷⁾。写真右の西側が低下している。水平変位量は約30cm、上下変位量は約35cm。8月1日撮影。



氷川町大野の車道を横切る地震断層。右横ずれ38cm。8月5日撮影。



氷川町野津の車道を横切る地震断層。右横ずれ175cm、縦ずれ44cm（写真手前の東側隆起）。8月5日撮影。

各地点の地表地震断層状況



53 氷川町野津の国道3号を横切る地震断層。
2cmの右横ずれ変位。8月5日撮影。



54 氷川町野津の用水路を横切る地震断層。
右横ずれ108cm, 縦ずれ37cm (写真手前の東側隆起)。
8月5日撮影。



55 氷川町野津の水田を横切る地震断層。
右横ずれ103cm, 縦ずれ30cm (写真奥の東側隆起)。
8月5日撮影。



56 氷川町野津の用水路および水田を横切る地震断層。
右横ずれ139cm, 縦ずれ48cm (写真奥の東側隆起)
8月5日撮影。



57 氷川町野津の道路の右横ずれ⁷⁾。右横ずれ約146cm,
縦ずれ約42cm (写真奥の東側隆起)。道路舗装には雁行
亀裂が認められる。8月1日撮影。



58 氷川町野津の水田を横切る地震断層。
右横ずれ114cm, 縦ずれ49cm (写真手前の東側隆起)。
8月5日撮影。

各地点の地表地震断層状況



氷川町野津の車道を横切る地震断層。右横ずれ52cm, 縦ずれ57cm (写真手前の東側隆起)。8月5日撮影。



氷川町野津の水田を横切る地震断層。右横ずれ126cm。8月5日撮影。



氷川町野津の水田を横切る地震断層。右横ずれ190cm, 縦ずれ約30cm (写真奥の東側隆起)。8月5日撮影。



氷川町野津。雁行状にクラックが配列する。右横ずれ百数十cm, 縦ずれ約30cm (東側隆起)。8月5日撮影。



氷川町野津の車道を横切る地震断層。右横ずれ118cm, 縦ずれ15cm (写真奥の東側隆起)。8月5日撮影。



氷川町野津の車道を横切る地震断層。右横ずれ141cm, 縦ずれ13cm (写真奥の東側隆起)。8月5日撮影。

各地点の地表地震断層状況



氷川町野津の氷川堰堤を横切る地震断層⁷⁾。右横ずれ141cm。8月5日撮影。



氷川町宮原の道路を横切る地震断層⁷⁾。道路白線を基準として右横ずれ約120cm。8月1日撮影。



氷川町宮原の道路を横切る地震断層⁷⁾。右横ずれ約81cm。写真左の水田にかけて雁行状の亀裂が認められる。8月1日撮影。



氷川町宮原にあらわれた地震断層⁷⁾。横ずれ約81cm。断層帯周辺がやや隆起する。8月1日撮影。



氷川町宮原の国道443号を横切る地震断層⁷⁾。横ずれ約186cm。断層帯の広い範囲で変位し、雁行亀裂が認められる。断層帯周辺がやや隆起する。8月1日撮影。



氷川町宮原の国道443号を横切る地震断層⁷⁾。道路白線や側溝が約147cmの右横ずれ変位を示す。8月1日撮影。

各地点の地表地震断層状況



氷川町柵の護岸壁の右横ずれ⁷⁾。
道路には雁行亀裂が認められ、やや写真手前の東側が隆起。
7月31日撮影。



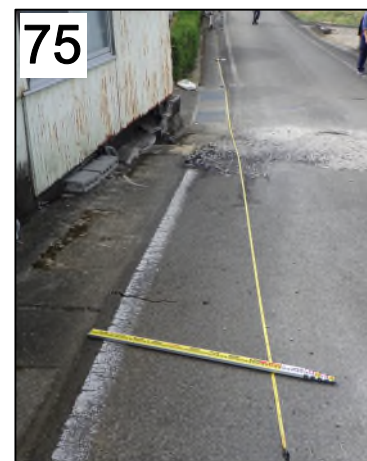
八代市岡町の水田の道路を横切る地震断層⁷⁾。道路脇の側溝を基準として右横ずれ約110cm。地震断層は雁行状に配列して水田を横切る。上下変位は小さい。8月1日撮影。



八代市岡町の龍峯小学校にあらわれた地震断層⁷⁾。
右横ずれ約98cm。上下変位約30cmで、断層近傍はやや撓み上がる。8月3日撮影。



八代市川田町の舗装路面の右横ずれ⁷⁾。
約30cm右横ずれし、上下変位は約30cm（写真奥の東側隆起）。
8月3日撮影。

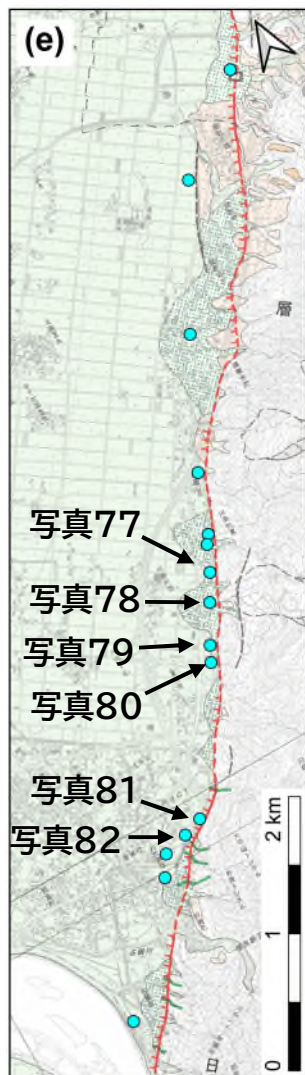


八代市川田町東の車道を横切る地震断層。
右横ずれ96cm、縦ずれ数十cm（写真手前の東側隆起）。
8月6日撮影。



八代市川田町東の水田を横切る地震断層。
右横ずれ123cm、縦ずれ51cm（写真手前の東側隆起）。
8月6日撮影。

各地点の地表地震断層状況



八代市川田町東にあらわれた地震断層。写真中央の水路に右横ずれ110cm, 東上がり30cmの断層変位が認められる。写真奥に見られる車両は国道3号線。8月1日撮影



八代市川田町西の新川（国営不知火幹線水路）を横断する橋梁アバットが地震断層による変位で120cm右横ずれしている。8月1日撮影



八代市東片町の水田を横切る地震断層。右横ずれ51cm。8月6日撮影。



八代市東片町の車道を横切る地震断層。右横ずれ57cm, 縦ずれ34cm（写真手前の東側隆起）。8月6日撮影。



八代市上片町の九州自動車道八代ジャンクション付近の道路を横切る地震断層⁷⁾。上下変位が顕著であり、変位量は約175cm（写真奥の南東側隆起）。8月3日撮影。



八代市上片町の九州自動車道八代ジャンクション付近にあらわれた地震断層⁷⁾。上下変位が顕著であり、2条の並行する地震断層が認められる。上下変位量は約57cmと約88cm（写真奥の南東側隆起）。8月3日撮影。

各地点の地表地震断層状況



八代市妙見町の民家にあらわれた地震断層⁷⁾。
上下変位が顕著であり、上下変位量は約60cm
(写真奥の東側隆起)。横ずれ変位はやや不明瞭。
8月3日撮影。

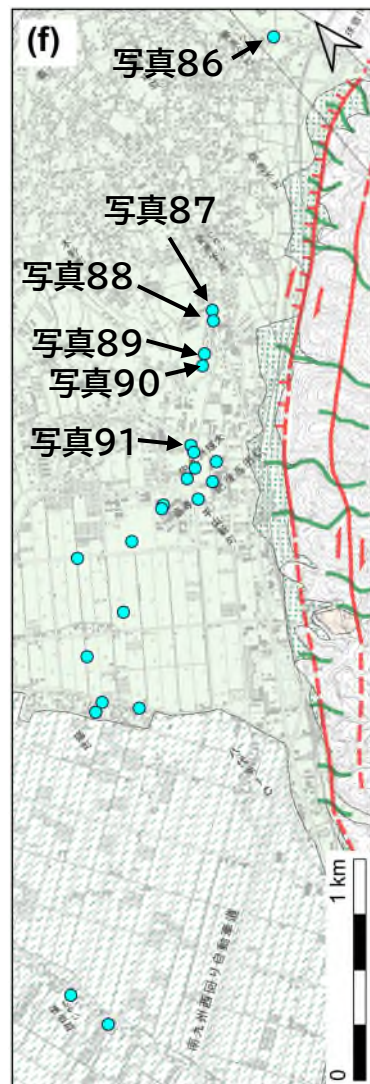


八代市妙見町の八代神社（妙見宮）にあらわれた地震断層。
右横ずれ95cm，東上がり40cmの断層変位が認められる。
地震断層は写真左奥の本殿の西側を通過して，神社の南に
隣接する木山商店まで連続している。
写真右の楼門は地震動により倒壊している。8月1日撮影



八代市古麓町の道路にあらわれた地震断層⁷⁾。
道路脇の側溝を基準として約76cm右横ずれしている。
上下変位は不明瞭。8月3日撮影。

各地点の地表地震断層状況



八代市豊原上町の国道219号線舗装の断層変位。変位量は、右横ずれ20cm，東上がり15cm。地震断層は写真右側（南西側）の田地に連続している。8月1日撮影



八代市豊原下町の駐車を横切る地震断層。わずかに右横ずれしている。8月4日撮影。



八代市豊原下町の道路の右横ずれ⁷⁾。道路白線および縁石が約5cm右横ずれする。上下変位は小さく不明瞭。8月3日撮影。



八代市豊原下町の車道を横切る地震断層。右横ずれ4cm。8月4日撮影。

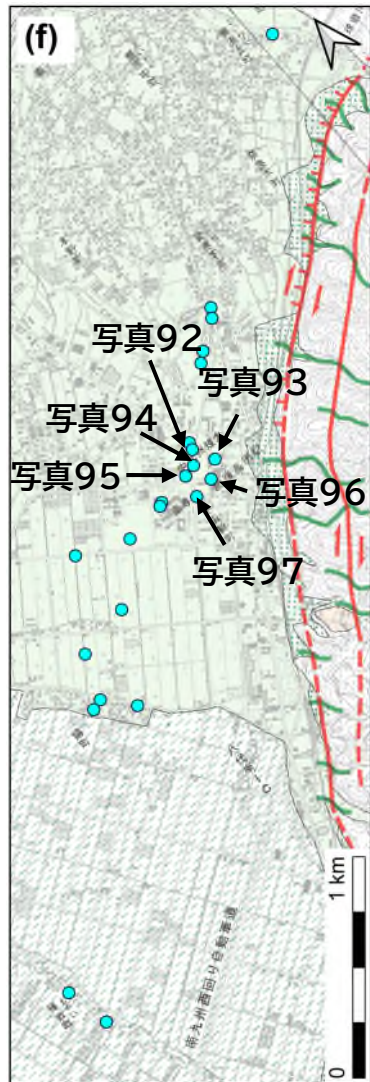


八代市豊原下町の水田を横切る地震断層。右横ずれ36cm（水田擁壁は地震前から曲がっていた可能性あり），縦ずれ数cm（写真手前の東側隆起）。水田内の水は西側に滞留している。8月4日撮影。

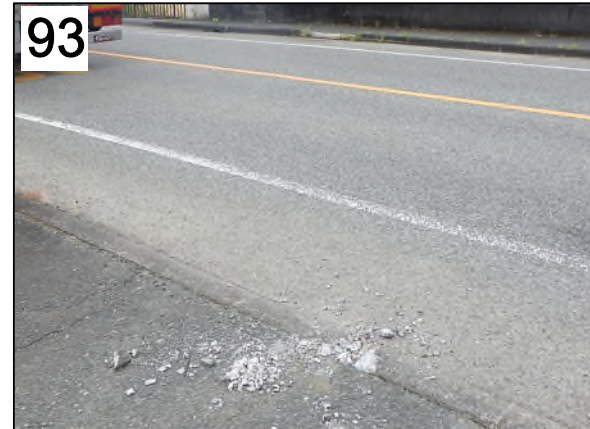


八代市平山新町の道路を横切る地割れ。地割れは幅約5cmで開口し，明瞭な横ずれおよび縦ずれ変位は認められない。8月4日撮影。

各地点の地表地震断層状況



八代市平山新町のタイルの右横ずれ。
変位量は1cm程度。8月4日撮影。



八代市平山新町の道路ブロックの損壊。
N40E方向の車道反対側も同様に損壊している。明瞭な横
ずれおよび縦ずれ変位は認められない。8月4日撮影。



八代市平山新町の歩道コンクリートの損壊。
明瞭な横ずれおよび縦ずれ変位は認められない。
8月4日撮影。



八代市平山新町の中九州短期大学の擁壁のクラック。
幅約2cmで開口している。
明瞭な横ずれおよび縦ずれ変位は認められない。
8月4日撮影。

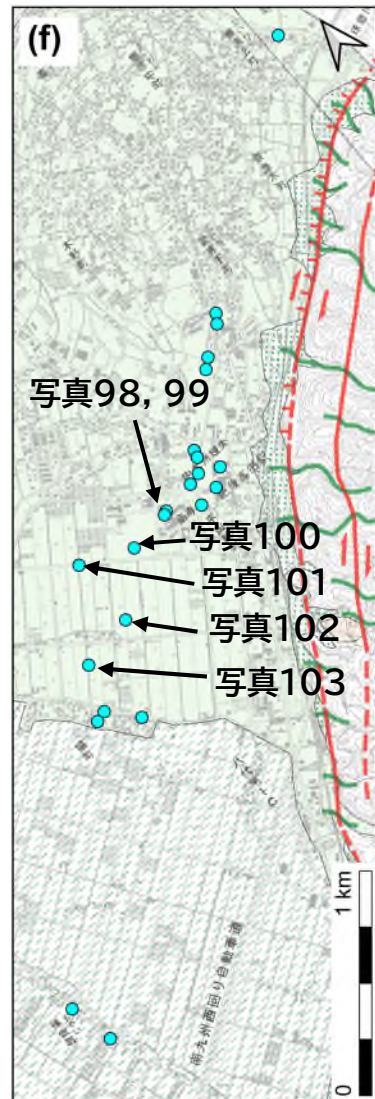


八代市平山新町の道路ブロックの損壊。
ブロックには約1cmの右横ずれ変位が認められるが、
車道には明瞭な変位は認められない。8月4日撮影。



八代市平山新町のタイルの損壊。明瞭な横ずれおよび縦
ずれ変位は認められないが、開口部付近のタイルがわず
かに左回転しているように見える。8月4日撮影。

各地点の地表地震断層状況



八代市平山新町の熊本高等専門学校八代キャンパス図書館の隅柱の損壊。右横ずれ変位により、管理棟と連結するペデストリアンデッキの柱（写真左側）との間が約5cm開いている。8月18日撮影。



八代市平山新町の熊本高等専門学校八代キャンパス図書館横の側溝の変状。右横ずれ7cm、縦ずれ1cm（南西上がり）。図書館建屋を挟んで、3～4条の地震断層が雁行状に配列する。8月18日撮影。



八代市平山新町の熊本高等専門学校八代キャンパスの陸上競技場にあらわれた地震断層。この西北西に位置する図書館付近から杉型の雁行配列しながら断続的に連続する。8月18日撮影。



八代市平山新町の農業用水路の集水柵の損傷。柵蓋グレーリングが右横ずれ変位により左回転しながら“逆くの字”に折れ曲がる。8月18日撮影。

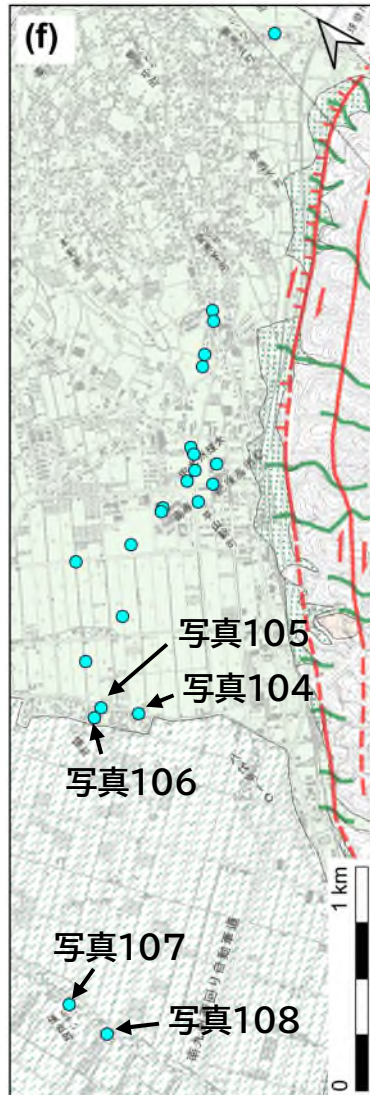


八代市平山新町の農業用水路の変状（右横ずれ1.5cm）。この他にも複数箇所でU字溝の圧縮変形が認められる。写真奥約250mに熊本高等専門学校八代キャンパスの野球場がある。8月18日撮影。



八代市平山新町の農道コンクリート張りの変状。この周辺では、圧縮変形によるコンクリートの損傷が目立つ。8月18日撮影。

各地点の地表地震断層状況



104
八代市場町の道路側溝の変状。
コンクリート蓋が破壊され、グレーチングが跳び出している。U字溝と手前のレンガ枠に1cm弱右横ずれが認められる。写真97～100にかけて、亀裂・地割れの分布は幅400～500mにブロードに広がる。8月18日撮影。



105
八代市場町の“夫婦楠”背後の道路側溝の変状。
路面は補修されており亀裂は確認できないが、側溝には右横ずれ4cm、縦ずれ1.5cm（南西上がり）の変位が認められる。明確な変位量の計測が可能な変状箇所の最南端に位置する。8月18日撮影。



106
八代市協町の空地（旧田地）に認められる噴砂跡。
明灰色の細砂からなり、水が流れ出た痕跡（ガリー）が認められる。噴砂跡は複数個所に認められる。
8月18日撮影。



107
八代市催合町における道路脇の水路の変状。田んぼ側のコンクリート壁が内側に折れ曲がる。この周辺には、道路構造物の圧縮変形によると思われる損傷が目立つが、路面の亀裂や地割れは確認できない。8月18日撮影。



108
八代市催合町における道路側溝グレーチングの浮き上がり
とコンクリート集水枠の損傷。周辺では、鋼、コンクリート、アスファルトなどの異なる材質の連結部で損傷が大きい。変位を伴う路面の亀裂・地割れは確認できない。8月18日撮影。

引用文献

- 1) 気象庁（2026）, 「令和8年熊本地震」の活動状況について
https://www.jma.go.jp/jma/menu/20260728_kumamoto_jishin.html
- 2) 気象庁：震度データベース検索
<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>
- 3) 国土地理院（2026）, 「だいち2号」「だいち4号」及びNISAR観測データの3次元解析による令和8年熊本地震（2026年7月28日）に伴う地殻変動
<https://www.gsi.go.jp/uchusokuchi/20260728kumamoto.html>
- 4) 熊原ほか（2017）, 1:25,000活断層図「熊本（改訂版）」, 国土地理院
- 5) 後藤ほか（2018）, 1:25,000活断層図「八代（改訂版）」, 国土地理院
- 6) 千田ほか（2018）, 1:25,000活断層図「日奈久」, 国土地理院
- 7) 遠田ほか（2026）, 日奈久断層帯沿いに約33kmの地表地震断層を確認（速報）, 東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）による解析・調査・報告資料
https://irides.tohoku.ac.jp/research/prompt_investigation/20260728kumamoto-eq.html